

奈良国立文化財研究所要項

I 研究・普及関係事業

公開講演会・現地説明会

1. 1973年4月8日 平城宮跡第77次発掘調査現地説明会 町田 章
2. 1973年6月2日 第33回公開講演会
「奈良・平安時代官人の服装―帯金具を中心にして」 佐藤興治
「大和と山城を結ぶ交通路―平城京出土の告知札に関連して」 横田拓実
3. 1973年6月16日 平城宮跡第2次内裏発掘調査現地説明会 藤村 泉
4. 1973年9月22日 平城京左京3条2坊10, 15坪発掘調査現地説明会 岩本圭輔
5. 1973年11月10日 第34回公開講演会
「光明皇后と皇后宮職」 鬼頭清明
「古代の施釉陶器」 高島忠平
6. 1974年3月30日 平城京朱雀大路発掘調査現地説明会 松沢亜生

外国出張

横山浩一 文部省在外研究員として西ドイツ・フランス・イタリア・ギリシアに派遣された。
：ヨーロッパに於ける考古学的発掘調査の体制と方法。1973年8月21日～同年10月2日
沢田正昭 文部省在外研究員としてアメリカ・デンマーク・イタリア・イギリス・スウェーデン・ポーランド・スイスに派遣された：遺跡遺物の保存科学。1973年11月16日～1974年11月15日

海外学者・研究者受入

インドネシア国立考古学研究所修復保存局職員 Yuwono Subbibyo Sasmitotenoyo, アジア地域の木造建造物の修理技術の修得のためユネスコ・アジア文化センターが招致した同氏を当研究所が1973年2月16日～7月8日まで受入れた。

平城宮跡調査整備委員会

1. 総会・発掘調査部会・整備管理部会 1973年5月18・19日 於、平城宮跡調査部
2. 総会・発掘調査部会・整備管理部会 1974年2月28日・3月1日 於、平城宮跡調査部

普及事業

1. 特別史跡平城宮跡資料館・覆屋特別公開
1973年4月29日～5月6日 見学者1961名
2. 特別史跡平城宮跡資料館・覆屋特別公開
1973年10月27日～11月11日 見学者8002名
3. 平城宮跡見学者数

区 分	覆 屋	資料館	計
1973	63,552	34,249	97,801
累 計	269,759	101,501	371,260

その他の事業

1. 1973年7月23日～8月29日 第8回埋蔵文化財発掘技術者研修会が平城宮資料館で行われた（文化庁主催・受講者15名）。
2. 1973年10月6日～10月20日 高松塚壁画調査及び応急措置等の作業が、文化庁により現地で行われ、当研究所が協力した。
3. 1974年3月20日 飛鳥資料館竣工式挙行。
4. 1974年3月28日 第1回平城宮跡保存整備委員会を赤坂プリンスホテルで開催（文化庁主催）。

1973年度文部省科学研究費補助金による研究

研究課題（種類 担当者 交付金額）

大和における条里条坊の復原的研究

一般研究A 狩野 久 15,000千円

古建築修理技術史の基礎的研究

一般研究B 鈴木嘉吉 2,000千円

古代土木技術の復原的研究

一般研究C 横山浩一 1,510千円

わが国仏像における台座光背の基礎的調査と形式変遷の研究

一般研究D 星山晋也 200千円

弥生時代成立期の研究―所謂縄文系土器について

一般研究D 高島忠平 350千円

飛鳥時代における新しい土器様式の成立と伝播

奨励研究A 西村 康 180千円

弥生時代における鉄製工具加工の地域性について

奨励研究A 山中敏史 180千円

先土器時代における集団関係の基礎的研究

奨励研究A 小野 昭 170千円

Ⅱ. 図書および資料（1973年度末現在）

図書 28,992冊 写真 106,722点

飛鳥資料館展示品（主要購入分）

軒丸瓦（若草伽藍・長林寺・定林寺跡出土各1点）

方形軒瓦（南滋賀廃寺跡出土1点）

複製製作

法輪寺三重塔心礎雄型、山田寺鷄尾、重文銅像
光背（甲寅年銘）、山田寺仏頭。

Ⅲ 研究成果刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名 称	担 当 者
昭29	第1冊 仏師運慶の研究	小林 剛
昭30	第2冊 修学院離宮の復原的研究	森 蘊
昭30	第3冊 文化史論叢	小林剛・森蘊・杉山信三・田中一郎・田中稔
昭31	第4冊 奈良時代僧房の研究	浅野清・鈴木嘉吉
昭32	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	浅野清・杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉
昭33	第6冊 中世庭園文化史	森 蘊
昭33	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告	坪井清足・鈴木嘉吉
昭34	第8冊 文化史論叢Ⅱ	小林剛・守田公夫・浜田隆・杉山二郎
昭34	第9冊 川原寺発掘調査報告	杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉・田中稔・工藤圭章・田中琢
昭35	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉・工藤圭章・田中琢・岡田茂弘・岩本次郎
昭36	第11冊 院家建築の研究	杉山信三
昭37	第12冊 巧匠安阿弥随仏快慶	小林 剛
昭37	第13冊 寝殿造系庭園の立地的考察	森 蘊
昭37	第14冊 レースと金亀舍利塔に関する研究	守田公夫
昭38	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査	坪井・鈴木・田中稔・工藤・田中琢・岡田・狩野久・河原純之
昭38	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査	榎本亀治郎・坪井・田中稔・工藤・沢村仁・田中琢・岡田・狩野
昭40	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査	榎本・坪井・田中稔・工藤・沢村・田中琢・岡田・狩野・河原・岩本
昭40	第18冊 小堀遠州の作事	森 蘊
昭42	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	杉山信三
昭44	第20冊 名物製成立	守田公夫
昭46	第21冊 研究論集Ⅰ	伊藤延男・田中 稔・長谷川 誠・沢田正昭
昭48	第22冊 研究論集Ⅱ	鬼頭清明・東野治之・阿部義平・田中 稔

奈良国立文化財研究所史料

年度	名 称	担 当 者
昭29	第1冊 南無阿弥陀仏作善集（複製）	田沢 担
昭30	第2冊 西大寺教尊伝記集成	小林 剛
昭38	第3冊 仁和寺史料 寺誌編1	田中 稔
昭39	第4冊 俊乗坊重源史料集成	小林 剛
昭41	第5冊 平城宮木簡 1	田中稔・田中琢・狩野・原秀三郎・横田拓夫・鬼頭・加藤優
昭42	第6冊 仁和寺史料 寺誌編2	田中稔・狩野・加藤優
昭44	第5冊 平城宮木簡 1解説（別冊）	坪井・守田・田中稔・田中琢・狩野・原・横田拓夫・工案普通・鬼頭・加藤優・岩本次郎
昭45	第7冊 唐招提寺史料 1	田中稔・加藤優・永野温子

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名 称	担 当 者
昭48	第1冊 瓦編1 解説	平城宮跡発掘調査部考古第三調査室

Ⅳ 機構・定員

機構の改正

1973年4月12日改正にともない従来の庶務課を庶務課（庶務係）および、会計課（経理係・用度係・平城宮跡整備管理係）としたほか平城宮跡発

掘調査部飛鳥藤原調査室が独立して飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室・第二調査室）が設けられ、また新たに飛鳥資料館（庶務室・学芸室）が設置された。なお飛鳥資料館は建物建設期間中の1973年4月12日～1974年2月21日の間、準備室を

春日野庁舎内に置いた。

定員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1972年度	1	13	6	50	70
1973年度	1	19	8	56	84

(増員内訳) 会計課 1 庶務課 1 飛鳥資料館 9 飛鳥藤原調査部 3

V 予算 (1974年度)

歳出	725,892,849
人件費	148,973,035
物件費	308,682,814
施設費	268,237,000

VI 施設

土地 24,693 m² (当所所管)春日野地区 5,126 m² 藤原宮跡地区 1,322 m²
飛鳥資料館 16,902 m² 資料館宿舍 1,343 m²965,786 m² (文化庁所管)平城宮跡地区 932,989 m² 藤原宮跡地区 32,797 m²

建物

建物	春日野	平城	藤原	飛鳥資料館	計
事務所	797	724	—	152	1,673
倉庫・収蔵庫	191	3,140	310	391	4,032
車庫	20	128	—	—	148
会議室	40	64	—	42	146
講堂	109	—	—	89	198
写真室	86	128	—	49	263
展示室	—	480	—	677	1,157
覆屋・展示棟	—	1,935	—	—	1,935
その他	200	916	620	1,040	2,776
計	1,443	7,515	930	2,440	12,328
重要文化財 旧米谷家住宅					217
合計					12,545

VII 人事移動

(1973年4月1日～1974年3月31日)

4月1日 岡山大学に転任 小野昭。文部事務官採用 忠利二。事務補佐員採用 吉田和子。研究補佐員採用 山本忠尚・千田剛道・西口寿生・大脇潔・中村雅治・綾村宏・北野保・兼康保明

4月12日 文化庁文化財保護部美術工芸課長補佐に配置換え 石藤守雄。文部技官採用 山本忠尚・千田剛道・西口寿生・大脇潔・中村雅治・綾村宏・刀谷敏博。庶務課長に昇任 原田拓。会計課長に昇任 根本栄夫。飛鳥藤原宮跡発掘調査部長に

昇任 横山浩一。平城宮跡発掘調査部考古第一調査室長に昇任 町田章。平城宮跡発掘調査部考古第二調査室長に昇任 工楽善通。飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に昇任 宮沢智士。平城宮跡発掘調査部考古第三調査室主査に任命 森郁夫。飛鳥藤原宮跡発掘調査部第二調査室主査に任命 猪熊兼勝。飛鳥藤原宮跡発掘調査部第二調査室長事務取扱に任命 横山浩一。飛鳥資料館長事務取扱に任命 内山正。飛鳥資料館庶務室長事務取扱に任命 根本栄夫。平城宮跡発掘調査部考古第一調査室に配置換え 金子裕之。飛鳥藤原宮跡発掘調査部第一調査室長に配置換え 八賀晋。飛鳥資料館学芸室長に配置換え 佐原真

6月1日 飛鳥資料館庶務室長に転任 前田和夫

7月1日 文部省に出向(九州芸術工科大学芸術工学部教授に就任) 沢村仁。文部事務官採用 沖村重則・津村広志。

7月31日 辞職 中村葉子

9月1日 事務補佐員採用 桑原和子・川辺美千代

9月10日 辞職 東田すみ子

10月1日 文部技官(平城宮跡発掘調査部考古第三調査室)に転任 松沢亜生。平城宮跡発掘調査部遺構調査室長に採用 岡田英男。研究補佐員採用 金井しん

10月16日 文部技官採用 高瀬要一

11月4日 辞職(名古屋市教育委員会文化課主事に就任) 安達厚三

12月11日 技能補佐員採用 稲垣耕正

1月1日 文化庁に出向(文化庁文化財保護部建造物課) 天田起雄

2月1日 文部技官(飛鳥資料館庶務室)に転任 奥村未儀。警務員(飛鳥資料館庶務室)に採用 米田一二三

3月30日 辞職 石丸洋・兼康保明

3月31日 辞職(佐賀県教育委員会文化財専門職員に就任) 高島忠平

X 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号
昭和43年6月15日一部改正

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に次の機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行なう機関とする。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令2号，追加昭和43年6月15日文部省令20号，
昭和45年4月17日文部省令第11号，昭和48年4月12日文部省令第6号

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第2款 奈良国立文化財研究所

（所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

（内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務課，会計課，美術工芸研究室，建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか，奈良国立文化財研究所に，飛鳥資料館を置く。

（庶務課の事務）

第125条 庶務課においては，次の事務をつかさどる。

1 職員の人事に関する事務を処理すること。

2 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。

3 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

4 この研究所の所掌事務に関し，連絡調整すること。

5 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。

6 前各号に掲げるもののほか，他の所掌に属しない事務を処理すること。

（会計課の事務）

第126条 会計課においては，次の事務をつかさどる。

1 予算に関する事務を処理すること。

2 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。

3 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

4 庁舎及び設備の維持，管理に関する事務を処理すること。

5 庁舎の取締りに関すること。

第127条 美術工芸研究室においては，絵画，彫刻工芸品，書跡その他建造物以外の有形文化財及び工芸技術に関する調査研究を行ない，並びにその結果の公表を行なう。

2 建造物研究室においては，建造物に関する調査研究を行ない，並びにその結果の公表を行なう。

3 歴史研究室においては，考古及び史跡に関する調査研究を行ない，並びにその結果の公表を行なう。

（平城宮跡発掘調査部の六室及び事務）

第128条 平城宮跡発掘調査部に，考古第一調査室，考古第二調査室，考古第三調査室，遺構調査室，計測修景調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては，平城宮跡に関し，次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行なう。

3 考古第一調査室，考古第二調査室及び考古第三調査室においては，別に定めるところにより分担して，遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

4 遺構調査室においては，遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の二室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、第一調査室及び第二調査室を置く。

2 第一調査室及び第二調査室においては、それぞれ藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡(藤原宮跡を除く)に関し、次の各号に掲げる事務を処理するほか、その発掘調査を行なう。

一 遺構及び遺物の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表

二 遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表

三 史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史

的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行う。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する。

(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行なうこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行なうこと。

三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行なうこと。

職 員

(1974年12月1日現在)

所属	氏 名	官 職	担 当
	小川 修三	文部事務官 所 長	
庶務部	服部 栄次	文部事務官 庶務部長	
	原田 拓	文部事務官 課 長	
	岩本 次郎	文部事務官 課長補佐	
	栢本 安臣	文部事務官 専門職員	平城事務
	八幡 扶桑	文部技官 専門職員(併任)	写 真
	井上 政和	文部事務官 係 長	
	忠 利二	文部事務官	庶 務
	木寅 忠雄	文部事務官 警務員長	平城警備
	森田 光治	文部事務官 警 務 員	平城警備
	岡田 博无	文部事務官 警 務 員	警 備
	宮本 宣代	事務補佐員	所長室付
	港 悦子	事務補佐員	庶 務
	吉田みちこ	事務補佐員	庶 務
	中川かよ子	事務補佐員	図書資料
部	中川 友子	事務補佐員	平城庶務
	石田 信子	事務補佐員	平城図書
	石川千恵子	研究補佐員	平城公開
	城本きよの	業務補佐員	平城庁務

所属	氏 名	官 職	担 当
庶務部	根本 栄夫	文部事務官 課 長	
	広瀬 二郎	文部事務官 課長補佐	
	日高 参夫	文部事務官 専門職員	
	加藤 建夫	文部事務官 経理係長	
	冬野 徹	文部事務官	経 理
	沖村 重則	文部事務官 (併任)	経 理
	稲葉 久子	事務補佐員	経 理
	細川 純子	事務補佐員	経 理
	橋本 伴子	事務補佐員	経 理
	吉田 和子	事務補佐員	経 理
	前川 重子	事務補佐員	平城経理
	西田 健三	文部事務官 用度係長	
	中西 建夫	文部技官	自動車運転
	飯田 信男	文部技官	自動車運転
	松石 清子	事務補佐員	用 度
	大藤美千代	事務補佐員	用 度
	西 一典	事務補佐員	用 度
	日高 参夫	文部事務官 施設整備(併)管理係長	
	渡辺 康夫	文部技官	整備管理
課	奥村 未義	文部技官 (併任)	整備管理
	久保 和子	事務補佐員	整備管理
	梶 幸治郎	技能補佐員	整備管理